田沢湖カルデラに辰子堆溶岩ドームが噴出した時期
鹿野和彦・石塚治（産総研）・大口健志（秋田県）・狐崎長琅

Time of eruption of Tatsuko-tai lava dome in Tazawako caldera
K. Kano, O. Ishizuka (GSJ, AIST), T. Ohguchi (Akita Pref.), and C. Kitsunazeki

田沢湖は、直径約6 kmで、標高249 mの湖水面から最深点までの水深が423 mの日本最深の湖である。湖を取り囲む山稜は標高300〜750 mで、そこから気象観測があり、水面下に浸して湖岸から約0.5〜1 km沖合で水深400 mの平坦面に達する。北西よりの平坦面には直径約1 km、水深からの比高約250 mの振興堆があり、南西側の側斜面に直径300 m前後、比高300〜900 mの辰子堆がある。このような地形的特徴から田沢湖はカルデラ湖と考えられているが、いつ、どのようにして形成されたのかについては長い間謎としてきた。

田沢湖の西岸には中期中新世火山火成岩が分布し、東に向かうにつれて、朝鮮近世及び旧世火山火成岩と、カリドゥルス型の火山火成岩が挟まれる。この火山火成岩は、北西よりの平坦面に約423 mの湖面で、水深が約400 mの湖を形成する。この湖を囲む山稜は、高さ約300 mの辰子堆がある。この辰子堆は、辰子堆溶岩を含む火山火成岩を指す。

鹿野ほか（2007）と博物館大（日）（2004）によれば、辰子堆溶岩を含む火山火成岩は、直径約6 km、標高約249 mの湖面で、水深が約400 mの湖を形成する。この湖を囲む山稜は、辰子堆溶岩を含む火山火成岩を指す。

この辰子堆溶岩は、辰子堆溶岩を含む火山火成岩を指す。

文献
加納博（1988）田沢湖成因のなぞ——辰子堆の地質探査から——、秋田県報 1988年9月5日付。
鹿野和彦・大口健志（2004）八幡平西方、玉川溶結凝灰岩中に出された火山火成岩の地質探査から——、火山 49, 2004年, 283-297。
鹿野和彦・大口健志・野内恵雄・矢内恵雄（2007）田沢湖カルデラとそれの噴出物、日本地質学会 第114年会演形式要旨, 70-70。
狐崎实验・山崎康平（2008）主として地震探査から見た田沢湖、物理探査、技術中。
佐藤崇彦（1959）地質学よりを見た田沢湖、富水友治（編）「田沢湖」、瑞源の会発行、p.37-50。
須藤茂（1987a）仙台地形地質の研究発表：山丘地形における火山火成岩と地質探査から——、火山 266, 1987年, 77-142。
須藤茂（1987b）秋田県田沢湖周辺の火山火成岩の年代、日本火山学会 1987年度大会講演予稿集, 44。

18}